もう1つ参考として，東京においても，「トレンド・ケース」(Aケース)と，トレンド・ケースに高層化促進，国際ビジネス充実のための投資という2つの政策を加えたケース(Bケース)を比較してみた．それによると，Aケースでは資源型産業が停滞期に入るほかは従来どおり増加傾向をつづけているが，Bケースでは中枢管理産業，市民サービス産業がAケースより以上に成長し，人口もAケースを上回わって増加している．つまり，Bケースでは東京は中枢管理産業の大いに発展したビジネス都市になっている．

以上は最初のテスト結果であり，パラメータの検証方法，住民パワーの表現方法，住みやすさの指標など不満足な点も多々あるので，機会があれば改良・発展させたいと思う．

SD手法では，システムの構造を把握し，その動態をうまくモデルに再現することが重要となる．この都市モデルは大阪をモデルにして設計したものであるが，そこでとらえようとした構造は大阪特有のものでなく，わが国における都市地域に共通する構造であるので，初期条件，パラメータを分析対象の都市（東京）の条件に設定すればその都市（東京）のシミュレーションが可能になる．その意味でこの都市モデルは普遍性を持っていると言える

最後にモデル作成にあたっては 堀　比呂志 氏(現在関西電力ニューヨーク事務所長)にいろいろとご指導いただいたことを紙面をかりて感謝いたします．

参考文献

1) 井原哲夫：人口分散のメカニズム，エコノミスト，1973年2月27日号

むろい・あきら　1948年生
1971年　東京大学工学部都市工学科卒業
㈱関西電力入社　現在総合地域対策室

ちょっとお待ちください

——論文誌投稿者へのご注意——

いまさら言うまでもないことですが，学会論文誌が水準を維持し，当学会の権威を国際的に代表しつつその機能を果していくことは，多数の論文審査員の貴重なご協力によってはじめて可能です．論文の審査はなかなか大変な作業で，個人差のある表現方法から，問題意識，発想，論文構成について著者の意を汲み取りながら，述べられている命題の正否，証明の当否，既存の文献との関係をチェックし，その成果を理論的に，また実用的に評価するまでの過程を良心的に行なうことは，想像以上の精力と時間を要します．もし誤りの多い英文を判読，訂正しながらこれを行なうとすれば，その労は倍加します．

こういう次第ですから，学界の第一線にある審査員の方々に必要以上のご負担をかけないために，論文誌に投稿される方はかならずつぎの注意を守っていただきたいと思います．

1) 投稿前に完成原稿を，下記の点を含めて十分注意しながらもう1度読み返す．

a 記号の混用，清書の際の写し違いはないか．

b 文章の構成はよいか．表現は難解ではないか．定理の証明に不十分な点はないか．また冗長な点はないか．

e 英文は正しく書けているか．英文のミスの多い原稿は内容の審査に入らないでお返しする場合があります．

2) はじめて論文を書く方は，論文の基本的な体裁，構成などについて，投稿前になるべく身近の経験者に見てもらうようにしてください．

3) 審査員の指摘にしたがって内容が改善された場合に，論文中に審査員への謝辞を一行記すことは，当然の慣行です．

論文誌編集担当　渡辺　浩

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．